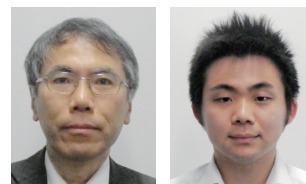


瀬戸内海における地域資源のネットワーク化方策に関する研究

(研究期間：平成31年度～平成32年度)



沿岸海洋・防災研究部 沿岸域システム研究室 室長 上島 顕司 研究員 藤田 淳

(キーワード) 瀬戸内海、地域資源、離島航路、みなとまちづくり

1. はじめに

平成27年6月、全国の広域観光周遊ルートのうち、海洋を舞台とした唯一の周遊ルートである「せとうち・海の道」が指定された。瀬戸内海には北前船の港町、離島航路のある港、みなとオアシス等の海や港に関わる優れた地域資源が数多く存在する(図-1)にも関わらず、現状では、これらの資源が十分に活用されているとは言いがたい。一方、昨今では、クルーズ来訪客の増大などに伴う島嶼間クルーズなどの新しい需要やその可能性も見られつつある。

そこで国総研においては、次年度より、瀬戸内海における海・港に関する地域資源の活性化、ネットワーク化方策の検討を本格的に行うこととなったので紹介する。

2. 検討会の設置

検討にあたって国総研、関係地方整備局が共同で「せとうち・うみのみち・新みなとまちづくり検討会」を設置し、進めることとした。

3. 今後の検討内容

本検討においては、

- ・地域資源を活用した実際のみなとまちの空間形成計画
- ・周辺の島嶼等を含めた連携・ネットワーク化方策
- ・海上のシークエンス景観の評価手法の構築等を検討課題として想定している。

4.

地域創生・暮らしやすさの向上

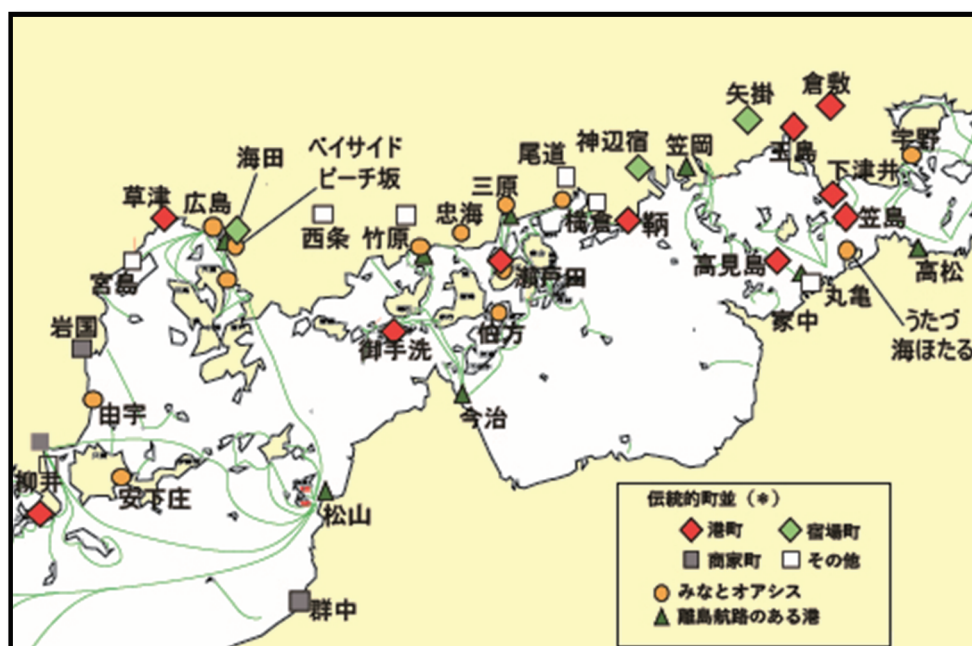


図-1 瀬戸内海における離島航路の拠点となる港・みなとオアシス・港町等